



POINT 1

知・技

ICTを活用した授業の工夫

AIドリルや新聞記事データベースなどを効果的に活用し、「知識及び技能」を身に付けることができるようにする。

「知識及び技能」の確実な習得とともに、子どもが自らの学習を自己調整しながら主体的に学習を進める「個別最適な学び」の実現に向けて、ICTを活用した「AIドリル」と「新聞記事データベース」の活用について紹介したい。

1 AIドリルの活用

社会科における基礎的・基本的な知識の定着のために、AIドリルの活用が考えられる。

AIドリルを使うことで、子どもたち一人一人に合った難易度の問題に取り組むことができるため、子どもの学習意欲を高めながら、学力向上にもつながると考える。また、教師が子どもの学習履歴を確認できるため、子どもに合わせた学習指導を行うことができると思われる。



【AIドリルを活用する様子】

2 新聞記事データベースの活用

これまで、学習内容と実社会を結び付けるために、新聞記事の活用を行ってきた。教師が選んだ新聞記事を授業で取り上げることが多かったが、新聞記事データベースを使うことで、学

習内容と関連する実社会の出来事を、子どもが自分の力で調べまといることができた。このように、新聞記事データベースの活用は、情報活用能力を向上させることができると考える。

【北海道新聞記事データベースの画面】



自分が生まれた
年月日の新聞記事を
調べる。



調べた記事を表計算
ソフトに入力し、学
級全体でまとめる。

	私たちが生まれた年の出来事
2009年04月	北朝鮮がミサイル発射
2009年06月	足利事件の菅谷さん無実、17年半ぶりに釈放
2009年06月	新型インフル、WHOがパンデミック宣言
2009年06月	GM、クライスラーが破綻
2009年06月	マイケル・ジャクソンさん死去
2009年07月	麻生首相、衆議院解散
2009年07月	中国ウイグル自治区で大規模暴動
2009年08月	民主圧勝、政権交代。
2009年08月	裁判員裁判始まる
2009年09月	鳩山内閣が発足

【調べ学習の様子と子どもたちが入力した画面】

～「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指して～

芽室町立芽室西中学校 教諭 掛水 成幸



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

思・判・表

NIE（新聞教育）を活用した授業の工夫

はがき新聞を活用して学習内容をまとめることで、社会の変化の様子や時代の特色などを多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。

歴史的分野の学習では、各時代の特色や課題、時代の変化を整理・考察する学習が重要であると考える。

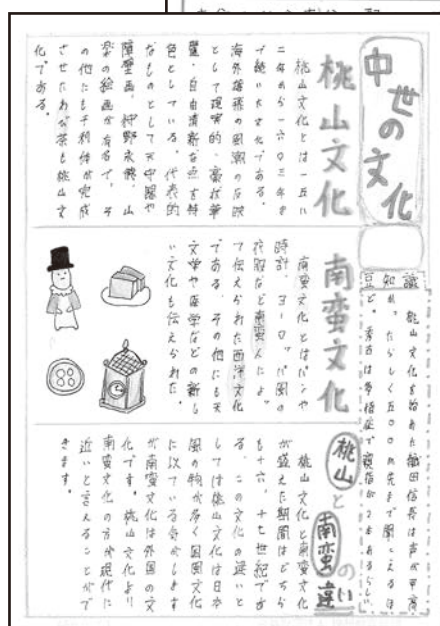
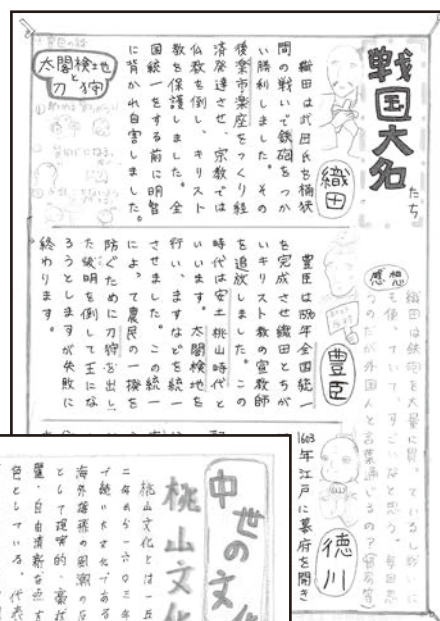
そこで、今回は学習内容ははがき新聞にまとめる実践を紹介したい。

題名		
その1	その2	その3
人物がどのように時代を変えたのか、文化はどのような文化でそれまでとどう違うのか、説明を書く。	人物がどのように時代を変えたのか、文化はどのような文化でそれまでとどう違うのか、説明を書く。	人物がどのように時代を変えたのか、文化はどのような文化でそれまでとどう違うのか、説明を書く。

【はがき新聞の様式例】

「織田・豊臣による統一事業」「江戸幕府の成立」の内容については、中世から近世へという時代の変化を捉えることがねらいとなる。

そこで、人物や文化が歴史の中でどのような意義をもつのかを理解するとともに、ヨーロッパ人の来航などを通して新しい時代がつくられていったことに気付くことができるようにするため、評価基準を示した上で、はがき新聞にまとめる活動を行った。



【はがき新聞の作成例】

「近世の始まり」についてまとめる		
A	信長・秀吉・家康がどのように時代を変えたのかを、説明している。また、信長・秀吉・家康の違いをまとめている。	桃山文化・南蛮文化がそれぞれどのような文化なのか、それまでとどう違うのか説明している。また、それぞれの特徴をまとめている。
B	信長・秀吉・家康がどのような政策を実行したのかなどを説明している。	桃山文化・南蛮文化がそれぞれどのような文化なのか説明している。
C	信長・秀吉・家康について、何をしたのか説明できていない。	桃山文化・南蛮文化について、説明できていない。

【評価基準の例】

完成した作品は掲示し、子ども同士で相互評価を行う。定期的にはがき新聞にまとめる活動と相互評価を継続的に行うことで、自分では気付かなかったことや、まとめ方の工夫などを学び合うことができ、更なる学びの深化につながると考える。